

Ⅷ. 帝王切開について

1. 帝王切開術とは

帝王切開術とは、何らかの理由で経膣分娩ができないか、急いで胎児を出さないと胎児あるいは母体に危険が及ぶ場合、お腹を開き、子宮に切開を入れて児を娩出させる手術のことをいいます。

もともと経膣分娩ができないため、妊娠10ヶ月に入り陣痛がない時点で計画的に行う予定帝王切開術と、胎児あるいは母体に危険が迫り急いで胎児を娩出させるために行う緊急帝王切開術があります。

2. 帝王切開術となる場合

(1) 予定帝王切開術

- ① 前置胎盤や経膣分娩ができない病気を合併している場合
- ② 骨盤位や多胎妊娠で帝王切開術を希望している場合
- ③ 子宮筋腫核出後（分娩時は帝王切開術を勧められている場合）
- ④ 以前、帝王切開術を受けた方で次に当てはまる場合
 - ☆ 2回以上帝王切開術を受けている場合
 - ☆ 以前の帝王切開術が子宮縦切開や逆T字切開の場合
 - ☆ その他、前の病院で次も帝王切開術を勧められた場合
 - ☆ 今回も帝王切開術を希望される場合 など

(2) 緊急帝王切開術

- ① 胎児の心音が低下し仮死兆候がみられた場合
- ② 陣痛が発来しているが、うまく分娩が進行せず経膣分娩が難しい場合
- ③ 妊娠中毒症重症や早産などで妊娠継続が困難な場合
- ④ 常位胎盤早期剥離、前置胎盤の大量出血時、臍帯脱出 など

3. 帝王切開術の実際

(1) 麻酔

通常は腰椎麻酔で行います。意識はありますので、手術中も赤ちゃんの泣き声を聞いたり、赤ちゃんの姿を見たりすることができます。副作用として麻酔の針穴から脊髄液がもれて術後1週間くらい頭痛がすることがあります。

(2) 時間

手術を開始して5分もたたずに赤ちゃんは生まれます。手術時間としては30～40分くらいですが、いろいろな準備がありますので手術室に入っている時間は1時間くらいです。

(3) 新生児科の立会い

帝王切開の場合、新生児が一時的に呼吸できない場合がありますので、当院では必要時に新生児科の医師が立会い、帝王切開で生まれた赤ちゃんは一時的に保育器に入ります。また、きちんと呼吸が出来ない時などは、数日新生児センターに入院することもあります。

(4) 手術方法

通常は子宮下部を横に切開する方法がとられます。胎児の娩出方法は胎児の頭に吸引カップを吸着させて引き出す方法やお腹を押して胎児を押し出す方法が取られます。

(5) 手術合併症

血栓症のリスクがありますので、術後はよく体を動かし早期離床を心掛けましょう。

(6) 入院期間

通常は手術後、7～8日です。手術の翌日には食事が始まり、歩けるようになります。

4. 帝王切開術の問題点

○ 新生児一過性多呼吸

陣痛が発来する前に予定で帝王切開を行う場合、赤ちゃんが一時的に呼吸障害を起こすことがあります。早い時期に予定帝王切開術を行うとその可能性が高いため、可能な場合は38週を過ぎた時点で帝王切開術を行うようにしています。

5. 帝王切開術後の次の分娩について

(1) 前回帝王切開を受け次の分娩で経膈分娩を試みた際に、ごくまれに(0.5%以下)切開創が破れて子宮破裂をおこすことがあります。子宮破裂がおこると、母体、胎児とも生命が危険な状態となります。従って、前回帝王切開を受けた方は今回のお産をどのようにするかは陣痛が始まる前に決めておく必要があります。当院では次回は普通のお産をしたという方にはご希望にそえるようにバックアップしております。

(2) 前回帝王切開を受けた方は陣痛促進剤による分娩誘発は子宮誘発のリスクがありますので予定日を過ぎたとしても行わないこととしております。したがって、普通分娩を希望される場合は自然に陣痛が出るまで待機することとなります。

(3) 帝王切開術を受けた方が次のお産をする場合、どのような分娩方法をとるかは医療機関によって違います。

当院では、前に帝王切開術を受けた方でも、

- ① 当院で通常の帝王切開を行った方
- ② 手術を受けた病院で次回普通分娩でも可能といわれている方
- ③ 経膈分娩を希望される方

などには経膈分娩を試みています。

☆ VBAC率とは

ブイバック率とは帝王切開を受けた人が次回のお産ではどの位の割合で経膈分娩したか

を示すものです。帝王切開を受けた方が次回も帝王切開ということになりますと帝王切開率が雪だるま式に増えてしまいます。どこの病院でも帝王切開率下げのためにVBAC率を上げようと努力しているのが現実です。ちなみに当院のVBAC率は60%、帝王切開率はハイリスク妊娠の方が多いためここ10年20～25%です。

※ その他、ご不明な点がございましたらご遠慮なく担当医にお尋ねください。